

経営健全化方針に基づく取組状況（令和２年度）

○法人名：奥濃飛白山観光株式会社

○経営健全化方針を策定した理由：債務超過額が426万9千円発生したため、策定したもの。

○財政的リスクの状況 (千円)

	平成30年度 決算（※1）	令和元年度 決算(※2)	目標達成年度 (令和5年度) ※3
債務超過額	4,269	15,326	0
事業の内容に応じて時価で 評価した場合の債務超過額	—	—	—
土地開発公社のうち債務保証 又は損失補償の対象となっ ている保有期間5年以上の土地 の簿価総額（A）	—	—	—
損失補償、債務保証及び短期 貸付けの合計額（B）	—	—	—
標準財政規模（C）	—	—	—
実質赤字比率（％）	—	—	—
(A) / (C) (％)	—	—	—
(B) / (C) (％)	—	—	—

※1：経営健全化方針の策定が必要となった決算年度の数値を記載

※2：該当する経営健全化方針の策定要件に関して、直近の決算額を、順次記載していく。

※3：当該団体が目標とする財政的リスク解消の達成年度の見通し及び数値を記載。なお、経営健全化方針策定通知においては、今後5年間で経営健全化方針の策定要件（財政的リスク）を解消することを目指して取組を記載することとしていることに留意。

○主な取組状況（令和2年3月現在）

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

経営改善のための取組

- ・宿泊者、従業員の意見を積極的に採用し、サービス改善による利用者、宿泊者の満足度の向上に努めた。
- ・所属長会議、部門別ミーティングを実施し、従業員間の連携の意識醸成に努めた。
- ・宴会・昼食部門の営業方針及び料理内容を見直し、人員、サービス面の質を高めた。

集客のための取組

- ・インバウンドの受入強化を図るための営業活動を積極的に実施した。
- ・ターゲットにあわせた購入しやすい宿泊商品づくりへの取組

【地方公共団体による財政的なリスクへの対処のための対応】

- ・会社経営の安定化を図るために、コンベンション機能及びホテル機能を強化するための支援
- ・定期的な運営状況の報告を受け、経営状況を確認している。

○法人の財務状況

(貸借対照表から)

(千円)

	平成 30 年度決算 (※4)	令和元年度決算 (※5)
資産総額	85,921	70,981
（うち現預金）	66,081	13,844
（うち売上債権）	1,155	4,359
（うち棚卸資産）	2,394	2,587
負債総額	90,190	86,307
（うち当該地方公共団体 からの借入金）	0	0
純資産総額	-4,269	-15,326

(損益計算書から)

(千円)

	平成 30 年度決算 (※4)	令和元年度決算 (※5)
経常利益	104,099	150,384
経常費用	129,234	185,148
経常損益	-25,135	-34,764
経常外損益	-1,115	12
当期純損益	-26,555	-35,057

※4：経営健全化方針の策定が必要となった決算年度の数値を記載

※5：直近の決算額を、順次記載していく。